

# 山科教会ニュース

2020年 5月 第351号

「すべてのいのちを守るため」にできることから始めましょう。

司祭 瀧野 正三郎

## 4月のトピックス

### ● 受洗に向けて準備しています

洗礼を希望されている5名の方が、入門講座で勉強を続けてこられました。

3月2日以降、ミサをはじめとする集会、講座などを休止している中、ユン神父様が司教様に許可をいただき、志願者とお世話する方に限定し、感染防止対策のもと、4月11日までの予定を終えることができました。洗礼式はミサ再開後となります。



### ● 一場神父様、ユン神父様が異動されました

4月13日付けで司祭・司牧者の異動があり、一場神父様が京都南部・京丹ブロックに、ユン神父様が京都南部・洛北ブロックに異動されました。一場神父様には7年間、ユン神父様には2年間、洛東ブロックの担当司祭としてお世話になりました。異動にあたり、一場神父様からコメントをいただきました。

「皆様、7年間、本当にありがとうございました。山科の共同体は、みことばを大切にしている共同体です。これからも、キリストであるみことばを皆で分かち合いながら、キリストの愛を生きていって下さい。皆様のためにお祈りしています。」

また、ユン神父様からは『山科教会の思い出』と題して手記をいただきました。

逢えば別れがあり、別離と再会は私たちの人生の旅路・・・。

その旅の途上で、私たちが得たものは何でしょうか？

私は人間の出会いと関係、もてなしと分かち合いの生き方であると思います。

そして感謝すべきことなどを追憶し、また何時か共に過ごしたいと思う時間ではないでしょうか。

美しい追憶、最も大切に忘れぬ出会いと分かち合い、感謝の気持ちなど・・・。

私が山科教会に参り、まず感じたことと言えば他では味わうことの出来なかった温かい雰囲気に入ることが出来たことでしょう。山科教会初ミサの時、活気が溢れていると誉めた記憶があります。

それは歓迎と親切、明るさ、教会共同体の温かさでありました。分かち合いと親切、奉仕活動は何処から導き出されるのでしょうか？

それは主に会って喜び感謝する心から生まれてくるのではないかと思います。この出会いと分かち合いは、教会の本来の姿ではないでしょうか。

主の懐の中で、一つの兄弟姉妹としての出会いと分かち合い、主の内では皆が集い、御言葉を分かち合い実践する姿を通して宣教の現場になる。特に役割を担当された皆が心を合わせて一緒に頑張っている姿、熱心さ、思いやり、その自然な形での姿の中に、山科教会は素晴らしい賜物をいただいているのです。

山科教会の皆様要望することがあるとすれば、この美しい姿を生かしての生活を継続されることを願っております。

皆様、たびたび集まって下さい。その場所を互いに作って良いでしょう。出会いと対話、分かち合い 主の共同体を深めてください。誰でも気軽に入れる温かい教会の雰囲気を・・・。

今、山科教会は良い雰囲気です。その印として洗礼志願者は4-5人です。小さい教会の中大きな恵みの印です。“二人、三人が集まるころ”に主は、いつもおられます。感謝と喜びのうちに・・・。

2020年4月13日 ユン・サン・ホ(ヨハネ)神父



一場神父様とユン神父様に、ご記入いただいた色紙とお菓子を、感謝の気持ちを込めてお贈りしました。  
一場神父様から皆様にお礼のメールが届いています。



山科教会の皆様

皆様、主の御復活おめでとうございます。

皆様には、本当にお世話になりました。

心から感謝申し上げます。また、心のコもったメッセージとお気遣いをいただき、感謝申し上げます。

私たちは今、かつてない困難な状況に置かれています。教会で集い、交わることができません。

しかし、私たちは、どのような状況に置かれても、霊的な交わりを持ち、祈り合うことができます。

山科教会の皆様のためにお祈りしてきました。これからも、お祈りを続けます。

今こそ霊的な交わりを強め、深めつつ、この困難な状況を克服していきましょう。

本当にありがとうございました。復活のキリストの平和が、皆様の上に豊かにありますように。

2020年4月14日 一場 修



※色紙については、ミサ等の休止及び外出規制のある状況で、色紙に記入するために多数の方が集まることは感染予防の観点からも良くないと判断し、お知らせ等でご案内することを避けました。  
あくまでも、聖体訪問に来られた方で、色紙にお気づきになった方にご記入いただきました。  
※お菓子については、役員の方にご準備いただき、「信徒の皆様からです」とお伝えいただきました。

## ● 瀧野神父様が洛東ブロックの担当司祭に着任されました

4月13日付けで、瀧野 正三郎神父様が三重・北部ブロックから洛東ブロックの担当司祭として着任されました。

また、ソ・ウオンハ神父様が韓国済州教区から洛東ブロックの協力司祭として来られますが、コロナ禍の影響で来日予定は未定です。

瀧野神父様、ソ神父様は、山科教会司祭館にお住まいになられます。

瀧野神父様から皆様にコメントをいただいています。

『京都南部洛東ブロック担当を始めるにあたって』

4月13日付で、京都南部洛東ブロック担当となりました。

菅原神父、ソ神父、Sr.ローサのチームです。教区司祭とチームを組むのは初めてです。

湖西ブロック、奈良地区では、宣教師の司祭とシスターと、三重北部ブロックでは、修道会の司祭とチームを組んできました。

今回、チェジュ教区から来られるソ神父は、すでに、日本語をマスターされているようですが、最初は、日本語学校で勉強しながら、協力司祭として働かれます。教区司祭と一緒に住むほうがいいと考え、山科教会と一緒に住むことを選びました。

一時期、司祭が定住していなかった時もあり、山科教会の信徒の皆さんが、自分たちで、教会を運営しようとしていることを強く感じます。

共同宣教司牧では、教会に住んでいる司祭が主任司祭ではなく、チームとして宣教司牧にあたることとなります。司祭、修道者だけでなく、信徒の方もチームとして、一緒に働いて下さることを期待しています。これから、よろしくお願いします。



2020年4月22日 瀧野 正三郎

## 『評議会』からのお知らせ

★新型コロナウイルス感染症への今後の措置と対応について、京都教区からの連絡です。

1. 主日ミサ参加義務の免除について、4月20日以降も当面の間、京都教区のすべての信徒に、主日のミサに参加する義務を免除します。
2. ミサ等休止の継続について、4月20日以降も当面の間、不特定多数が参加する公開のミサ、集会、講座を原則休止します。

ミサの様子は東京司教区のライブ配信等でみることが出来ます。(https://www.tokyo.catholic.jp/)

3. 葬儀は、担当司祭・関係者と十分な感染防止対策について相談の上、20人以内の小規模で行うことができます。結婚式も同様ですが、支障がなければ延期して下さい。
4. 聖堂の開放について、京都教区では原則、聖堂を開放することは自粛して下さい。  
※山科教会では4月17日より当面の間、感染リスクを避けるため聖堂を閉鎖しています。
5. 今後の措置について
  - 1) 日本政府の「緊急事態宣言」が解除された後の感染状況を見て、措置内容に変更がある場合は改めてお知らせします。
  - 2) ミサ等集会を再開する場合の判断基準は、各ブロックの担当する地域(府県、あるいは市町村)および隣接する地域において、過去2週間、感染者が確認されていないことを条件とします。  
感染者が継続して確認されている地域のブロックでは、ミサ(集会祭儀)・集会・講座などは再開することはできません。

京都教区が、教会でのミサ等の集会を自粛する目的は『すべてのいのちを守るため』、まずは皆さんのいのちを守るため、そして各自が意識しないまま感染源となり、他の方を危険にさらす可能性を避けるためです。感染を広げないため、隣人への愛の行いと祈りを捧げましょう。

パウロ 大塚喜直 司教

★山科教会からのお知らせは、毎週日曜日に更新されますので、詳細は山科教会ホームページをご確認下さい。また、京都教区のホームページもご参照ください。

## 『洛東ブロック』からのお知らせ

★5月3日に伏見教会で予定されていましたが、アフリカのルワンダで24年に渡り義足を無償で提供されている『ムリンディ・ジャパン・ワンラブプロジェクト』の報告会は中止になりましたが、ご支援のご協力をお願いします。

振り込み先等の詳細は、『ムリンディ・ジャパン・ワンラブプロジェクト』のホームページをご覧ください。(http://www.onelove-project.info/support.html)

★5月2日～3日に予定されていましたが『中高生会 & 青年のつどい』、『子どもとともにささげるミサ & バーベキュー』について今回は中止となり、来年以降に延期する予定です。

## 2020年5月の予定

『新型コロナウイルス感染症について ミサ等の休止及び今後の措置(その4)』に基づき、引き続き4月20日以降のミサ(集会祭儀)・集会・講座などを休止しています。

今後の措置については、「各ブロックの担当する地域(府県、あるいは市町村)及び隣接する地域において、過去2週間、感染者が確認されていないこと」が再開の判断基準となっており、現時点で5月の予定をお知らせすることができません。

再開等、新たな動きについては、決定次第、聖堂入口(外側)の掲示板、毎週のお知らせ、山科教会ホームページ等でお知らせ致します。(http://www.cyamach.sakura.ne.jp/)

## 教皇フランシスコ 2020年5月にあたってすべての信者に送る手紙

5月は聖母マリアに捧げる月としていますが、感染症の大流行によるさまざまな制約の中、家でロザリオの祈りの素晴らしさを再発見するよう、すべての信者に向けて手紙を送られています。

<カトリック中央協議会ホームページより引用>

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、

五月も間近となりました。五月は、神の民がとりわけ熱心におとめマリアへの愛と崇敬を表す月です。五月には家庭で家族一緒にロザリオの祈りを唱える伝統があります。感染症の大流行によるさまざまな制約の結果、わたしたちはこの「家庭で祈る」という側面がなおさら大切であることを、霊的な観点からも知ることになりました。

そこで、わたしはこの五月に、家庭でロザリオの祈りを唱えるすばらしさを再発見するよう皆さんにお勧めしたいと思ったのです。だれかと一緒に唱えることも、独りで唱えることも、どちらの機会も最大限に活用して、状況に応じて決めることができます。これを行うための秘訣は、わかりやすさです。祈りのよいお手本は、インターネットでも簡単に見つかるでしょう。

それから、聖母にささげる祈りを二つ用意しました。ロザリオの祈りの結びに唱えたらよいと思います。わたしも五月の間、皆さんと心を合わせて祈ります。皆さんに使っていただけるよう、この手紙に添えています。

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、わたしたちの母マリアの心でキリストのみ顔をともに観想することは、霊的な家族としてのわたしたちの結びつきをさらに強め、この試練のときを乗り越える助けとなるでしょう。わたしは皆さんのため、とくにもっとも苦しんでいる方々のために祈ります。皆さんもわたしのために祈ってください。感謝を込めて、心から皆さんに祝福を送ります。



ローマ、サン・ジョヴァンニ・イン・ラテラノ大聖堂にて  
2020年4月25日 聖マルコ福音記者の祝日に  
フランシスコ

※『マリアへの祈り1』、『マリアへの祈り2』を別紙添付します。

※『ロザリオの祈り』については、北白川教会のホームページ等を参照ください。

(<http://stviator-kcc.org/祈り/ロザリオの祈り/>)

## カリタスジャパンが「新型コロナウイルス感染症緊急募金」を開始

世界中で猛威を奮っている新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大に伴い、カリタスジャパンでは緊急支援募金を開始しました。お寄せいただいた募金は、国内外において、次の援助、支援に充てられます。

- ①国際カリタスへの資金協力を通じて、全世界で実施される救援活動や困窮者への組織の援助
  - ②日本国内での、感染症予防に取り組む活動や、生活困窮者への支援を行う団体活動への支援
- 詳しくはカリタスジャパンのホームページをご覧ください。( <http://www.caritas.jp/2020/04/20/3630/> )

◆御復活をお祝いするかのよう、入口の桜が満開でした(4/12撮影)◆



\*\*\*発行責任者\*\*\*  
河原町・伏見・山科・桃山共同宣教司牧  
担当司祭：瀧野 正三郎  
編集：カトリック山科教会 広報部  
住所：〒607-8415  
京都市山科区御陵中筋町3  
TEL：075-581-0719  
FAX：075-581-0760  
URL：<http://www.cyamach.sakura.ne.jp>